

街の樹木

都市樹木研究室

公園・緑地の植栽点検シリーズ

第4回



樹木の安全点検

倒木や落枝の危険を発見しよう!

その1 枯枝

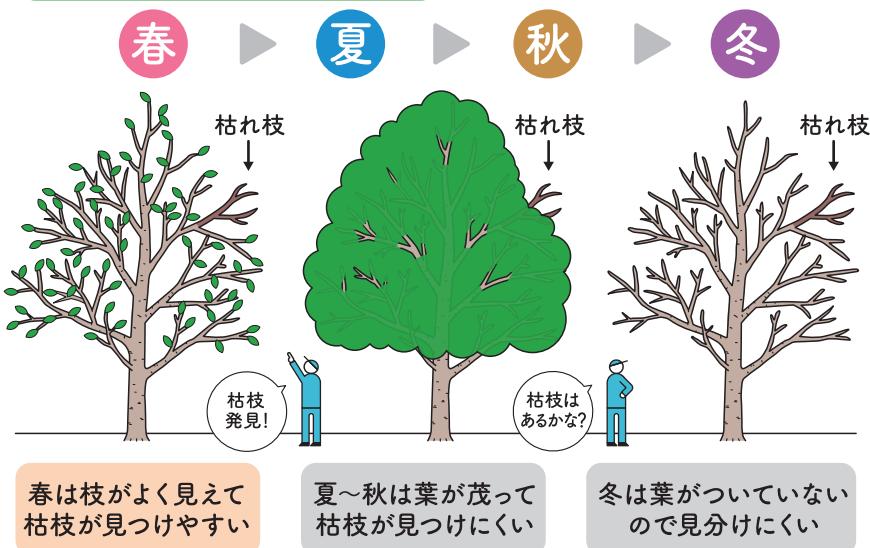
枯枝の落下事故のニュースを皆さんも一度は目にしたことがあるかもしれません。直径数センチの枯枝でも高いところから落下すると大きな衝撃になり、人に当たると命の危険につながる事故になります。今回はそんな事故を未然に防ぐため、枯枝の見つけ方について紹介します。

1

枯枝を見つけやすい時期

常緑樹は一年を通して葉をつけていため、枯枝の見つけやすさは時期によらず殆ど変わりませんが、落葉樹は葉が茂り過ぎない春過ぎが最も簡単です。地域や樹種によって葉が出てくる時期は異なるので、萌芽前の枝を枯枝と間違えない様に注意が必要ですが、葉が生茂る夏以降は、枯枝が他の枝葉に隠れてやや見つけにくくなる場合があります。また、落葉後の冬は葉がついていないため、枯枝を見分けるためにはテクニックが必要になります。

落葉樹の枯枝を見分けやすい季節



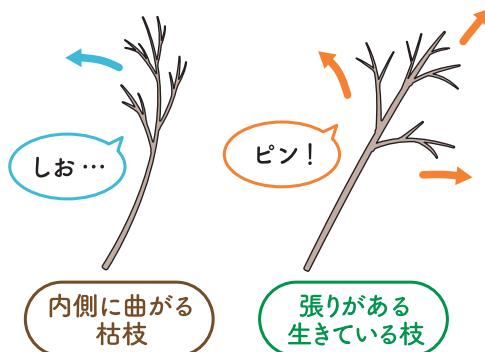
2

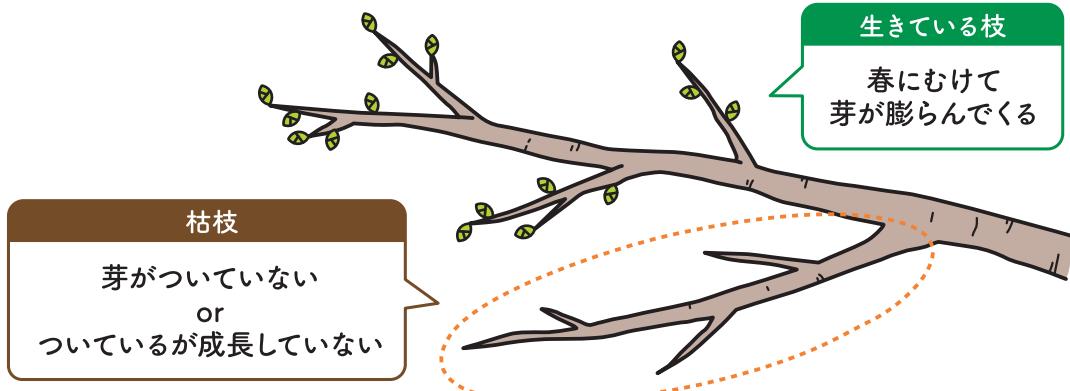
冬の枯枝の見分け方

冬に落葉樹の枯枝を見つけるのは難しいかもしれません、よく観察すると見分けることが出来ます。

枝が手に届かない場合

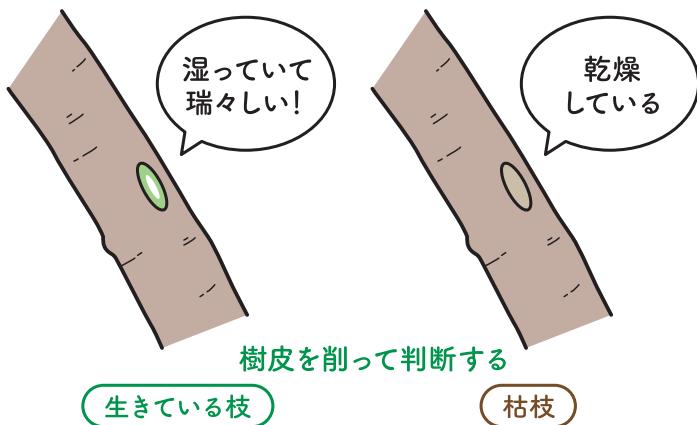
枝の形や芽の膨らみ具合から判断してみましょう。枯れて中の水分が抜けてくると枝が内側に曲がってくため、生きている枝と見分けられることができます。また、生きている枝の芽は春が近づくにつれて大きく膨らんでくるのに対し、枯枝は芽がついていないか成長する前の小さな芽のままなので判断出来ることがあります。





枝が手に届く場合

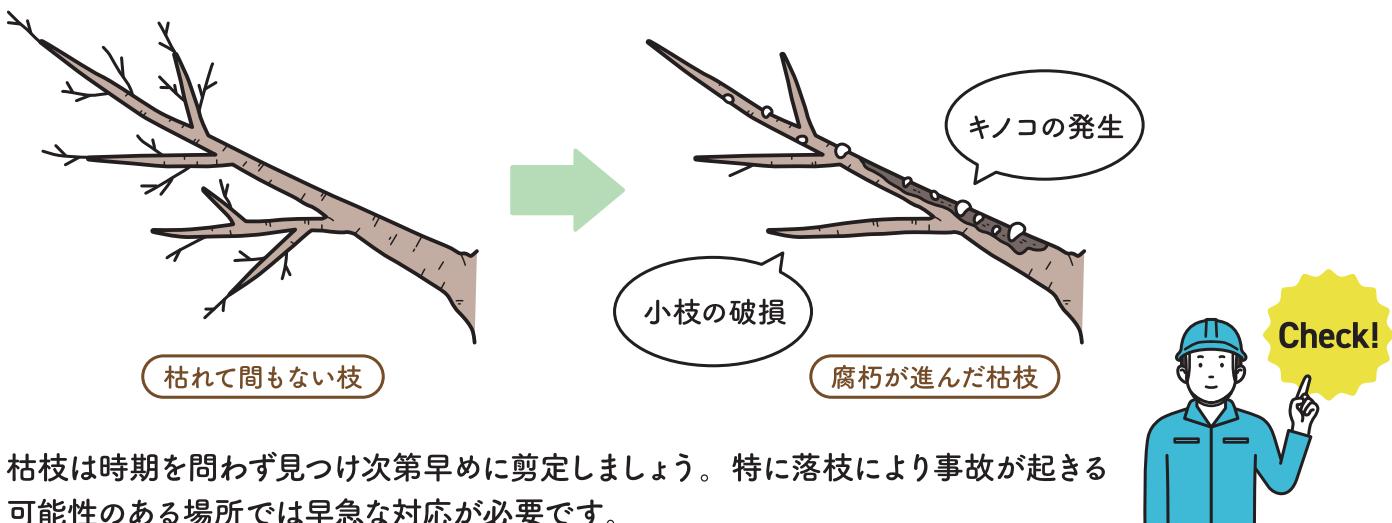
小枝を手で曲げてみましょう。生きている枝はしなって中々折れませんが、枯れている場合は、簡単に折れてしまいます。また、太めの枝であれば、樹皮を少しだけ削ってみましょう。生きている場合は水を吸い上げており、削った部分が緑色で湿っています。枯れている場合は削った部分が茶色く、乾燥しています。



生きている枝

枯枝

枯れてから時間が経ち、腐朽が進むとキノコがついていたり、小枝が折れて無くなっていたりします。この様な枯枝は特に折れる可能性が高くなっているので注意しましょう。



枯枝は時期を問わず見つけ次第早めに剪定しましょう。特に落枝により事故が起きる可能性のある場所では早急な対応が必要です。

公園・緑地の植栽点検・講習のご依頼は株式会社エコルまで!

